

【実践報告5】

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究の取組

県立稲沢高等学校 教諭 森平 清源



1 はじめに

稲沢高校は今年で105年目を迎える伝統校であり、「園芸科」「農業土木科」「環境デザイン科」「生活科学科」の4学科から成る農業の専門高校である。実学である農業を学ぶことができ、高大連携やインターンシップなどのキャリア教育にも力を注いでいる。地域住民に卒業生が多く、PTA組織も学校に協力的である。「ふれあい農園」や「いきいきマーケット」など地域の方との交流も盛んであり、近隣の保育園児や特別支援学校の生徒を受け入れての農業体験など地域全体で人を育む体制も整っている。また海外への修学旅行（台湾）を通じて国際感覚をもった人材の育成も目指している。

進路に関しては約6割の生徒が地元の企業を中心に就職しており、残りの約4割は大学や専門学校などへ進学している。校風はのんびりとしていておおらかであり、生徒は人懐っこく素直な性格の者が多い。近年では地場産業（植木）の衰退、農業従事希望者の減少、近隣の中学生数の減少などにより、入学者選抜での受検希望者が減少傾向にある。それに加えて基礎学力の低下、家庭環境が複雑な生徒や心に問題を抱えた生徒の増加、外国籍生徒の増加など多様化する生徒への対応に苦慮している。

2 研究の目的

本校では、従前より抱えているさまざまな問題があり、全教職員が現状のままではいけないことを漠然と感じてはいる。しかし、個々で別々に対処して学校全体で組織的に問題を解決しようとする具体的なアプローチはなかった。カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究を通して、学校の強みと弱みを洗い出し、問題点や育てたい生徒像を全教職員で共有化することで、組織的に改善に取り組み、かつ、それを継続させていく方法の確立を目的とする。

3 研究方法とその経過

- (1) カリキュラム・マネジメントに関する理解と教育目標や育てたい生徒像の共有化（グランドデザインの作成）

① 平成30年6月7日 現職研修

外部講師を招いてカリキュラム・マネジメントに関する勉強会を開催し、その後カリキュラム・マネジメント検討用シートのアンケートを全教職員に依頼した（アンケートは記名有りで回収）。

② 平成30年6月14日 カリキュラム・マネジメント検討用シート提出締め切り

この時点では回収が未完了であった。

③ 平成30年7月末日 カリキュラム・マネジメント検討用シート回収完了

表計算ソフトでデータを集計後、まとめを作成した。ただし、アンケートの備考欄はほとんど記述がなかった。その後、運営委員と運営委員でない教員別にデータ比較や分析を実施した。

④ 平成30年10月18日 現職研修

現職研修を開催し、総合教育センター所員が参加した。7月末に作成したカリキュラム・マネジメント検討用シートの分析結果（数値）を記入したカリキュラム・マネジメント検討用シートを基に全教職員参加でグループ協議を行い、学校の現状分析を実施した。その場で意見集約して、グループ発表を行ったため、たくさんの意見を集約できた。



【写真 1 グループ協議での成果】

⑤ 平成30年10月22日 グループ協議での意見集約

本校の強み・弱みを付箋に色分けして書き、検討用シートの項目別に台紙に貼ってまとめた。これを職員室に掲示した（写真1）。

⑥ 平成30年10月25日 カリキュラム・マネジメント分析シートの完成

2回実施したカリキュラム・マネジメント検討用シートのまとめとSWOT分析を基にしてカリキュラム・マネジメント分析シートを作成した。本校の問題点の洗い出しとともに、分析結果を参考にしてグランドデザインの作成を開始した。

⑦ 平成31年1月末日 グランドデザイン（案）完成

⑧ 平成31年4月初旬 平成31年度グランドデザイン（完成版）の提示（写真2）

職員室に今年度版のグランドデザインを拡大印刷したものを掲示し、全教職員に教育目標や育てたい生徒像などの共有化を図った（添付資料1）。



【写真2 グランドデザインの掲示】

⑨ 令和元年5月20日 現職教育

昨年度作成したカリキュラム・マネジメント分析シートを配付し、教務主任によるカリキュラム・マネジメント研修を実施した。その後、昨年度10月の研修結果を基に作成したカリキュラム・マネジメント検討用シート（数値入り）を用い、グループごとで協議を実施した（添付資料2）。

⑩ 令和元年5月27日 グループ協議のまとめの提示

カリキュラム・マネジメント検討用シートの集計結果（添付資料3）を作成し、運営委員会、職員会議に提出した。また、グループ協議で作成した本校の強み・弱みを色分けして付箋に書き、台紙に貼ってまとめて職員室に掲示した。

⑪ 令和元年10月21日 カリキュラム・マネジメント分析シートの作成・提示

今年5月の現職研修で作成したカリキュラム・マネジメント検討用シートの集計結果を用いて、カリキュラム・マネジメント分析シートを作成した(添付資料4)。昨年度はSWOT分析シートを用いて学校の強み・弱みを明確化したが、今年度は使用しなかった。その理由は、SWOT分析に関しては学校の内部、外部環境に顕著な変化が見られたとき、もしくは数年に1回程度、学校の現状に合わせて行えばよいと考えたからである。作成したカリキュラム・マネジメント分析シートは運営委員会、職員会議に提出して、分析結果を共有した。

⑫ 令和2年1月下旬 次年度のグランドデザイン(案)作成

カリキュラム・マネジメント分析シートや保護者アンケートを基にして、グランドデザイン(案)を作成する。

⑬ 令和2年3月下旬 次年度のグランドデザイン完成

令和2年度の新職員会議にて提示する。

(2) カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた授業改善

① 令和元年5月下旬 単元配列表の作成(添付資料5)

② 令和元年5月27日～6月14日 授業公開週間での研究授業

農業科科目「グリーンライフ」における授業風景(写真3, 4, 5)



【写真3 目標の掲示】



【写真4 グループワーク】



【写真5 グループ発表】

③ 令和元年6月19日 総合教育センター所員による授業参観及び指導

初任者及び新任2年目の教員による研究授業を実施した。授業実践に向けた共通理解チェックシート(添付資料6)による確認や、単元レベルでの資質・能力チェックシート(添付資料7)を用いての授業後の振り返りを行った。

④ 令和元年10月 教科等横断的な視点を取り入れた「総合的な探究の時間」の指導計画の作成

海外への修学旅行(台湾)を題材にして、生徒が調べ学習した成果をグループごとに発表した。また、数学・英語・国語・地歴・家庭科及び各専門学科の教員に台湾と関連した授業内容の作成を依頼した(令和元年12月中旬締め切り)。

⑤ 令和元年11月16日 オープンスクールでの公開授業を利用した研究授業

(3) カリキュラム・マネジメントを利用した新教育課程の編成に関する取組

- ① 令和元年8月初旬 高等学校教育課程愛知県説明会
教務主任及び各教科・学科担当者が参加した。
- ② 令和元年8月26日 高等学校教育課程愛知県説明会に関する報告会の開催
新教育課程説明会の内容をA4用紙1枚程度にまとめ、各担当者が説明を行い、他教科との情報の共有化を図った。
- ③ 令和元年9月初旬 新教育課程のためのカリキュラム・マネジメント表の作成依頼
新教育課程の編成に当たり、教育目標を実現するための育成すべき資質・能力を三つの観点別
に示してもらい、どの学年でどの教科を履修するか希望を教科・学科別に提出を依頼した（10
月17日提出締め切り）（添付資料8）。
- ④ 令和元年11月1日 第1回教育課程検討委員会実施
新教育課程の作成案を基に会議を実施した。
- ⑤ 令和2年1月下旬 第2回教育課程検討委員会実施
新教育課程（第1案）を完成する。

(4) 評価・改善に関する取組

- ① 4月、9月 高校生のための学びの基礎診断
第1、第2学年で実施した（ベネッセ基礎力診断テスト 英語・数学・国語）。10月中旬に、担
当者から基礎力診断テストの解説を受けた。
- ② 5月下旬 授業参観週間での教師による授業評価
- ③ 11月中旬 オープンスクールでのアンケートによる授業評価
- ④ 12月 保護者会アンケート
- ⑤ 1月中旬 教科・学科・分掌・学年ごとに自己評価（学校経営案と関連）
- ⑥ 2月初旬 学校評議員による学校評価

4 カリキュラム・マネジメントの取組成果

(1) 教育目標と育成すべき生徒像の共有化

これまでは教育目標が年度始めに確認されるだけであり形骸化していた。教育活動の目標は、学年・教科・学科・分掌ごとに掲げて個々に行動しており、学校全体としての組織的な取組は不十分であった。今回のカリキュラム・マネジメント研修を通じて、教育目標や育成すべき具体的な生徒像などがグランドデザインによって共有化され、組織として何をすべきかが明確になった。

(2) 主体的・対話的な深い学びの視点に立った授業改善

本校は小規模校で、特に普通科の教科では正規の教員が1～2人しか配置されていないため、教科での研修が十分に行われにくい環境である。そのため、まずは若手教員を中心にカリキュラム・マネジメント研修を通しての授業実践を行った。単元レベルでの資質・能力チェックシートを用いて、授業後の振り返りに活用することで授業改善につなげた。

(3) 教科等横断的な視点での授業への取組

単元配列表の作成により、他教科と連携して学習計画を再考する機会を得た。また、来年度に向けた「総合的な探究の時間」の年間指導計画を練り直している。特に、第2学年の海外修学旅行に向けた事前学習を教科等横断的な視点で行っていく準備を進めている。

(4) 新教育課程の編成作業

教育目標を実現するためのカリキュラム・マネジメント表を作成し、どの学年でどの教科を履修するか希望について教科・学科別に確認した。これを基に新教育課程の原案を作成中である。

(5) カリキュラム・マネジメント分析シートによる本校の組織的な問題点の洗い出し

入学希望生徒の減少、多様化する生徒への対応、ミドルリーダーの育成、仕事の個業化など本校が抱えている問題点がより明確になり、全教職員で問題意識を共有化することができた。

(6) 組織運営の改善

カリキュラム・マネジメント分析シートにより学校の現状を全教職員で把握することができるとともに、学校運営を主体的に各教員が同じベクトルで考えていく気風が生まれた。

5 まとめ

カリキュラム・マネジメント分析シートを作成することにより、本校の抱える課題が明確になり、何をどのように改善すればよいかを組織的に考えるよい機会となった。また、作成したグランドデザインを職員室に掲示して教育目標や育成すべき生徒像を全教職員にいつでも捉えてもらうことで、学校全体あるいは学年、分掌、教科、学科ごとに何をすべきかの指針をはっきりさせることができた。

カリキュラム・マネジメント分析シートの作成だけでもかなり労力を要したが、慣れてしまうと比較的容易に作成することができた。毎年改善を継続するためには、いかに無理をせず行っていくかが大切なポイントと言える。本校では、無理をせずやれることから順序立てていくことを意識した。そのため、当初の分析は教務主任で行っていたが、全教職員がその作業に携わることができるように変える予定である。

今後実施すべきこととして、「高校生の学びのための基礎診断」に関する年間学習計画の作成、学校設定教科「基礎教養」の内容の見直し、教育活動に必要な地域等の外部資源の活用についての研究、カリキュラム・マネジメント分析シートの効果的な利用法などを考えている。学校運営に全教職員で組織的に取り組むことを常態化し、生徒と教師がともに輝き、地域に愛される学校を目指していきたい。

本校のスクールカラーは「えんじ色」です！

平成31年度稲沢高校グランドデザイン

教育目標

◇よい個人を形成する ◇よい市民を育成する ◇よい職業人を育成する

個人の尊厳を重んじ、自らたくましく人生を切り開くなど「個人」の伸長を図り、農業高校生として、生命を尊び、自然を大切にする精神を養う。そして、郷土を愛し豊かな文化を継承できる「市民」であり、国際感覚を持ったグローバルな「職業人」を育成することを目指す。

本校の強み

- ◆地元卒業生が多くPTA活動も協力的
- ◆農業体験を通して地域で人を育む体勢
- ◆創立105年目の伝統
- ◆実学である農業を学べる
- ◆海外修学旅行による国際人感覚を身に付けたグローバル人材の育成

育てたい生徒像

- ◆地域を愛し、地域から愛される、生徒も教師も輝く、笑顔溢れる学校
- ◆基本的な生活習慣やマナーを身に付ける
- ◆得意分野を伸ばし、自信が持てる「強み」を持つ
- ◆「人」としてのレベルの向上
- ◆経験を生かし組み立てていく活用力をつける

学校評価

保護者アンケートより

- ◆農業教育が充実
- ◆普通科で学ぶことのできない分野
- ◆生徒指導に力を入れている
- ◆稲高祭など学校行事が活発
- ◆部活動が活性化
- ◆農業クラブ活動が活発
- ◆開かれた学校づくりを進めており、地域から大切にされている

「未来へ稲高」

「協力・協働」

入れる学校から

「入りたい学校へ」

重点目標

学習指導・生徒指導・進路指導の一元化

生徒指導の充実

- ◆基本的生活習慣の確立（遅刻・欠席）
- ◆身だしなみ指導の強化・推進
- ◆挨拶の励行
- ◆情報モラル・安全教育の実施
- ◆部活動指導の活性化

学習指導の充実

- ◆主体的・対話的で深い学びの実践と授業改善
- ◆基礎力の習得と家庭学習の定着
- ◆伸長機会の充実
- ◆GAP・STEM教育の推進

教職員の協力態勢の確立と多忙化解消

- ◆グループ化した分掌の連携強化（学習推進G：総務・教務・保健、キャリア推進G：農場・進路、生徒指導推進G：生徒指導・生徒会）
- ◆不足分を補完し相互協力態勢を図ることで多忙化解消につなげる

キャリア教育の充実

- ◆全ての教育活動におけるキャリア教育の推進
- ◆積極的な進路意識の向上

災害意識の高揚

- ◆生命のかけがえのなさと大切さに気付かせる

人権意識の向上

- ◆道徳教育の推進
- ◆他人を思いやる心の醸成

多忙化解消への意識改革

- ◆ワークライフバランスを重視した勤務意識の醸成

【添付資料2】

研修プラン (R1. 5. 20)

タイトル	カリキュラム・マネジメントについて	時間	60分
目的	新学習指導要領の解説を基に、カリキュラム・マネジメントの理解を深める。また、カリキュラム・マネジメント検討用シートや分析シートを基に、自校の現状分析を行い、今後の教育課程編成や授業改善に役立てる。		

■時期 カリキュラム・マネジメント検討用シート実施前、または、カリキュラム・マネジメント検討用シートを実施し、集計を終えたところで行う（今回は前者で実施）

- 形態
- 1 「講義⇒グループ協議⇒発表⇒個人の振り返り」の活動がある
 - 2 グループの分け方：4～5人程度のグループ編成
(学校の実情に合わせて、教科等横断か、教科ごとに行うか決める)
 - 3 進行役について：全体の進行は、教務主任・研修主任等が行う
(事前にグループごとの司会を決め、協議の流れを周知するとよい)
 - 4 60分の時間が取れないようなら、カリキュラム・マネジメント検討用シートを事前に配付し、グループ協議のテーマを伝え事前に考えてもらっておく

- 準備物
- プロジェクタ、スクリーン、パソコン
 - ワークシート
 - 資料A「カリキュラム・マネジメントについて」(講義用資料)
 - 資料B1「カリキュラム・マネジメント検討用シート」
 - 資料B2「カリキュラム・マネジメント分析シート (H30年度)」
 - 資料C「グループ協議用台紙」(A3×2枚)
 - 付箋 (7.5cm×5.0cm, 2色 (青色, 黄色), 人数分×各10枚くらい)
※サイズ, 色等は一例
 - 黒サインペン (人数分)

●研修前

60分の時間が取れないようなら、カリキュラム・マネジメント検討用シートを事前に配付し、グループ協議のテーマを伝え事前に考えてもらっておく。

●研修

	【形態】 (時間)	内容	留意点等	スライド 番号
導入	【全体】 (2分)	○グループで着席する。	○進行役は、あらかじめグループを決めておき、着席の指定をする。 ○資料C (台紙), 付箋は事前に配付する。 ・グループ分けは上記「■形態の2」を参照する。	

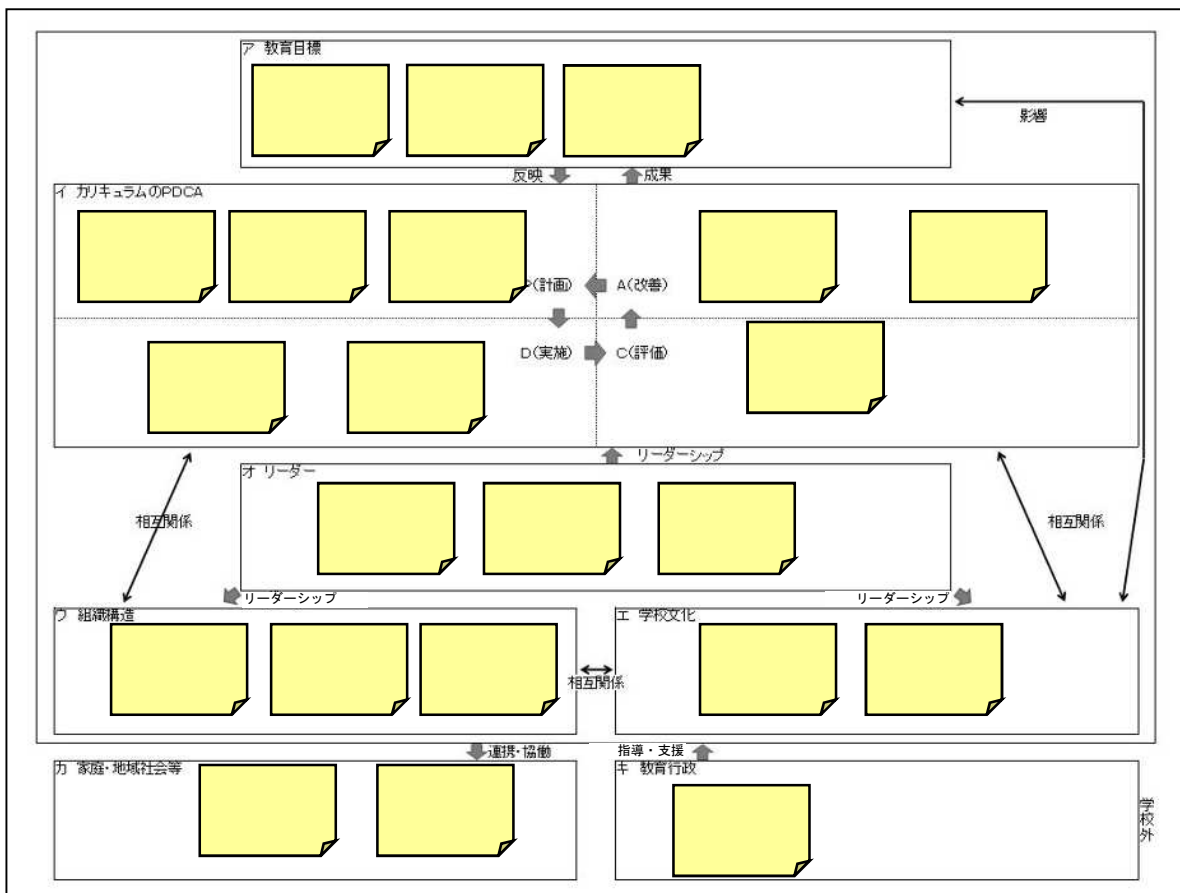
		○研修の目的について説明を聞く。	○進行役は、目的を伝える（スライド2を参照）。	2
講義	【全体】 (15分)	○講義を聞く。 ○資料Aにメモを取りながら聞く。	○進行役は、資料Aを配付する。	3 { 10
グループ協議	【全体】 (2分)	○協議の流れを聞く。	○進行役は、資料B 1 及びB 2 を配付し、協議の流れを説明する（時間が無い場合は事前配付，説明）。	
	【個人】 (8分)	○カリキュラム・マネジメント検討用シートを基に、各要素の評価できる点、改善が必要な点、改善策を考える。	○カリキュラム・マネジメント検討用シートのアンケートを取りながら、備考欄に記入する評価できる点、改善が必要な点（解決策）を記入する。 ○課題、改善案は、付箋（青色（評価できる）と黄色（改善を要する）に分けて）に記入する（時間が無い場合は、研修前にあらかじめ記入しておいてもらう）。	11
	【グループ】 (15分)	○グループ内で記述内容を発表する。	○台紙に記入した付箋を貼りながら、簡潔に発表する。	12
	【全体】 (10分)	○全体で代表のグループが発表する。	○進行役は、進捗状況と協議内容を見ながら、グループを指名して、発表させる。	13
省察	【個人】 (5分)	○「省察」をワークシートに記入する。	○進行役は、台紙に貼られた付箋をもとに、最終的に自分が当面に取り組みたいことを考え記入するように指示する。 ・付箋を貼った台紙は、黒板や壁などに掲示する。	14
まとめ	【全体】 (3分)	○まとめを聞く。	○進行役は、台紙の内容を見ながら、よい例を幾つか紹介する。 ○進行役は、研修の目的を再度伝え、一人で実践するのではなく、学校全体で協働して取り組むことの大切さを確認する。 ○台紙は、職員室等に掲示することを伝える。	15

●研修後

- 台紙に張られた内容は、カリキュラム・マネジメント分析シートの作成に生かす。(組織的)
- 台紙を掲示することで、全体で取り組むべきことについて共有化を図る。(協働的, 共有)
- 個人の実践の状況についても、なるべく授業を公開し参観する中で、生徒の変容と教師の変容に着目し、職員集団での実践の共有化を図る。(賞賛, 共有)

(参考資料)

※1 (研修時台紙のイメージ)



- ・各要素に貼れる付箋は3～4枚 (7.5 cm×5.0 cmの付箋の場合)
(意見が多かった場合は少し重ねて貼ってもらう)

【添付資料3】

<p>【稲沢高等学校】 2019/5/27</p> <p>授業改善に向けたカリキュラム・マネジメント検討用シート（高等学校用） 【集計結果】</p> <p>氏名（ ）</p>						
<p>【1】目標（育てたい生徒像、重点的に育成したい学力など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を愛し、地域から愛される、生徒も教師も輝く、笑顔溢れる学校 ・ 基本的な生活習慣やマナーを身に付ける ・ 得意分野を伸ばし、自信が持てる「強み」を持つ ・ 「人」としてのレベルの向上 ・ 経験を生かして組み立てていく活用力を付ける 						
<p>【2】（【1】の目標を実現するために重点的に取り組む教育活動「教科・領域・活動等」）</p> <p>【重点目標】学習活動・生徒指導・進路指導の一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・対話的で深い学びの実践と授業改善、基礎力の習得と家庭学習の定着、伸長機会の充実、GAP・STEM教育の推進 ・ 基本的な生活習慣の確立（遅刻・欠席の減少）、身だしなみ指導の強化・推進、挨拶の励行、情報モラル、安全教育の実施、部活動の活性化 ・ 全ての教育活動におけるキャリア教育の推進、積極的な進路意識の向上 						
<p>質問 学校の教育目標はどのくらい実現されていますか。 2.68(+)</p> <p>() 4 期待以上の成果が出つつある () 3 おおむね予定どおり成果が出つつある</p> <p>() 2 あまり成果が出ていない () 1 ほとんど成果が出ていない</p>						
<p>本シートを活用して、カリキュラム・マネジメントの全体像（構成要素と要素間のつながり）を理解するとともに、勤務校の実践について、よさや課題、改善方を考えていきます。まず、カリキュラム・マネジメントの基本的な実践の状況について勤務校の実態を評価してください。下表の「要素」は、「分析シート」内の各要素に対応しています。「項目」は各要素を代表するような具体的な実践項目の例です。4段階で評価し、「評価できる点」、「改善が必要な点」、「解決策」等を書き込んでください。</p>						
		評価				備考
要素	項目	よくあてはまる	どちらからかといえはあてはまる	どちらからかといえはあてはまる	ほとんどあてはまる	評価できる点については○を付し、改善が必要な点については▲を付す。解決策やその他、気付いたことについても記入してください。
		4 ++	3 +	2 -	1 --	
ア	教育目標 2.95 (+)	1 学校全体の学力傾向やその他の実態、課題について、全教職員が共有している。	2.68			○教育目標を確認し、生徒に身に付けさせたい力を具体化し、教員同士で協力して改善に取り組んでいる ○卒業後の進路に即した目標設定 ○目標が具体的で分かりやすい ○グランドデザインを職員室内に掲示し教育目標の「見える化」に努めている ▲学校目標を十分に認識していない ▲どのような生徒を育てたいか内面的文言が多い。具体的数値を設け明確化すべき
	2 学校の教育目標や重点目標は、生徒や地域の実態を踏まえて設定されている。	3.05				
	3 学校の教育目標や重点目標には、「生徒に身に付けさせたい力」や「めざす生徒像」が具体的に記述されている。	3.14				
イ	カリキュラムのPDCA P（計画） 2.68 (+)	4 学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容等は、それぞれが連動するよう作成されている。	→ 2.49			○学科の特徴が反映されている ○学校設定教科「基礎教養」で中学校の学び直しが継続的に計画されている ▲他教科の学習内容が大まかにしか分かっていない
	5 学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容の相互関連が一目でわかるような全体計画や年間指導計画が作成されている。	2.57				▲各教科で作成した指導計画について全体で検討する機会が無い ▲教科内容がかぶる ▲教科書だけでは体験的・主体的・対話的な学びは無理
	6 学習成果の評価（規準や方法、時期など）について、年度当初に計画している。	2.97				▲学科によって同じ科目でも考査を行う所もあればそうでないところもある ▲計画倒れに終わってしまう ▲年間指導計画をじっくり立案する時間がとれない
イ	カリキュラムのPDCA D（実施） 2.78 (+)	7 あなたは学校の教育目標や重点目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。	2.84			○朝の身だしなみ巡回指導の実施 ○朝学時の各学年での巡回指導 ○少人数での授業展開（目が行き届く） ○学科や専攻の特性を生かした授業展開ができていない
	8 あなたは学年・各教科等に示す目標や内容の相互関連を意識して、日々の授業を行っている。	2.68				▲朝学は分らなかつた事柄についてはそのままになっている（定着度が低い）
	9 あなたは既習事項や、先の学年で学ぶ内容との関連（系統性）を意識して指導している。	2.84				▲従来のやり方から脱却できていない ▲定期考査の難易度に差がある。勉強しなくては点が取れないテストを実施すべき
イ	カリキュラムのPDCA C（評価） 2.36 (-) ↓	10 あなたは学校の年間指導計画の改善に役立つような記録（メモ）を残している。	2.38			○日々の執務内容・生徒記録を詳細に記載している ○参観週間が有効に活用されている
	11 指導の改善にむけた評価（授業評価や研究指定校事業における取組の評価等）を組織的に行っている。	→ 2.35				○今回のような評価の見直しをする時間がある ▲授業参観週間で同教科の先生の参観をする機会が必ずしも確保できない

イ	カリキュラムのPDCA A (改善) 2.42 (-) ↓	12	年間学習指導計画の反省等を、次年度に向けた改善につなげている。	2.65		○初任研など研修対象の先生を中心に研究授業を行うことで、新しい授業の手法やICT機器の活用などの研修機会を設けている ▲改善のため余裕がない ▲どのような形で解決するのか具体的な手立てが不十分 ▲調査の分析をするという習慣がない ▲業者テストなどの結果を関係学年以外に全体で共有する場がない。さらにその結果を分析して十分に活用しているとはいえない
		13	定期考査や校内外の学力調査等の分析結果を参考に、対象学年だけでなく学校全体の指導計画を見直し、改善している。		2.16	
		14	定期考査や校内外の学力調査等の分析結果を参考に、対象学年だけでなく学校全体の具体的な指導法を見直し、改善している。		2.19	
		15	あなたは学校の授業研究の成果を日常の授業に積極的に生かしている。	2.68		
ウ	組織構造 (人・物・財・組織と運営・時間・情報など) 2.09 (-)	16	教育課程の編成、評価や改善に全教職員が関わっている。		2.00	○ONESAとの協力のもと週一回の打合せ ○幅広い年齢層の教員が配置 ○仕事の分担割振がうまくいっている部署がある ▲担当科目が多く教材研究する余裕無し。指導もはじめてで日々追われている ▲役割分担があいまい。個人にかかる負担が大きい ▲老朽化に伴い安全の確保が困難な部分がある ▲時間的余裕がない、人も足りない ▲組織の構造はあるが機能していない ▲正規教員の不足 ▲研究・研修できる時間が無い
		17	必要な研究や研修ができるよう時間確保への配慮がなされている。		1.86	
		18	教職員が、他校や研修機関など学校外での研修に参加できるように支援されている。		2.03	
		19	教員以外のスタッフ(ALT・SC・SSW・学校司書等)と連携協力している。	→	2.49	
エ	組織文化 (カリキュラム文化・組織文化・個人的価値観) 2.68 (+)	20	あなたは学校として力を入れている実践(特色)を具体的に説明できる。		2.08	○学年の壁がなく生徒の情報交換が行われている ○実習を通して生徒が多く先生とコミュニケーションがとれる。情報交換が行いやすい ○学年主任会等による生徒情報の共有を進めている ○チーム稲高。仲間の助け合いがある ▲教員の多忙化 ▲仕事が個人に集中→仕事の協働化が必要 ▲生徒の耐性が弱い(登校しぶり、連続欠席) ▲教科間での情報共有の機会が無い ▲自己肯定感が低く自ら進んで動こうとする積極性に欠ける
		21	あなたには自己の知識や技能、実践内容を相互に提供しあう姿勢がある。		2.81	
		22	あなたは学級や学年を越えて、生徒の成長を伝えあい、喜びを共有している。		2.92	
		23	あなたには自分の担当学年・教科だけでなく、学校の教育課程全体で、組織的に生徒を育てていくという意識がある。		2.92	
オ	リーダーシップ 2.90 (+)	24	校長は、教育と経営の全体を見通し、ビジョンや戦略を示している。	3.43		○校長はいろいろ改革を考えている ○1年学年主任は意志を示してくれるのでやりやすい ○学校行事・PTA通信などで3つの学校教育目標を発信している ○現状に即した具体的な方向性の指示 ▲校長は改革を進めているが現場がついていけない
		25	副校長・教頭は、ビジョンの具体化を図るために、学校として協働して取り組む体制や雰囲気づくりに尽力している。		2.89	
		26	主任や中堅教員は、ビジョンをもとにカリキュラムの工夫や研究推進の具体策を示して実行している。		2.81	
		27	あなたは立場や役割に応じてリーダーシップを発揮している。	→	2.46	
カ	家庭・地域社会等 2.19 (-)	28	学校の教育の成果と課題を保護者・地域と共有し、共に解決策を考えたり行動したりする機会がある。		2.54	○ふれあい農園・いきいきマーケットなど地域との交流 ○生徒が落ち着いてきて地域とうまくコミュニケーションできるようになった ○卒業生が地域に多く協力的 ▲保護者の協力が得られない(連絡が取れない・家庭指導力が期待できない) ▲地域の人材や素材を積極的に活用する所までは至っていない ▲家庭が複雑な生徒が多い
		29	教育活動のために、図書館・大学・企業等の外部機関を積極的に利用している。		2.03	
		30	あなたは地域の人材や素材を積極的に活用している。		2.00	
キ	教育行政 1.92 (-)	31	指導主事等の訪問の機会を積極的に活用している。		1.92	○十年研でいただいた資料を授業に活用している ▲学ぶ時間と心の余裕がない ▲社会的資源の活用が不十分(消防署・センター・図書館・税務署など)
		32	あなたは、国や教育委員会主催の研修に参加する機会が多い。		1.95	
		33	国や都道府県・市町村が提供している資料等を活用している。		1.89	
注) 1.75未満→(--)、1.75以上2.5未満→(-)、2.5以上3.25未満→(+)、3.25以上→(++)						

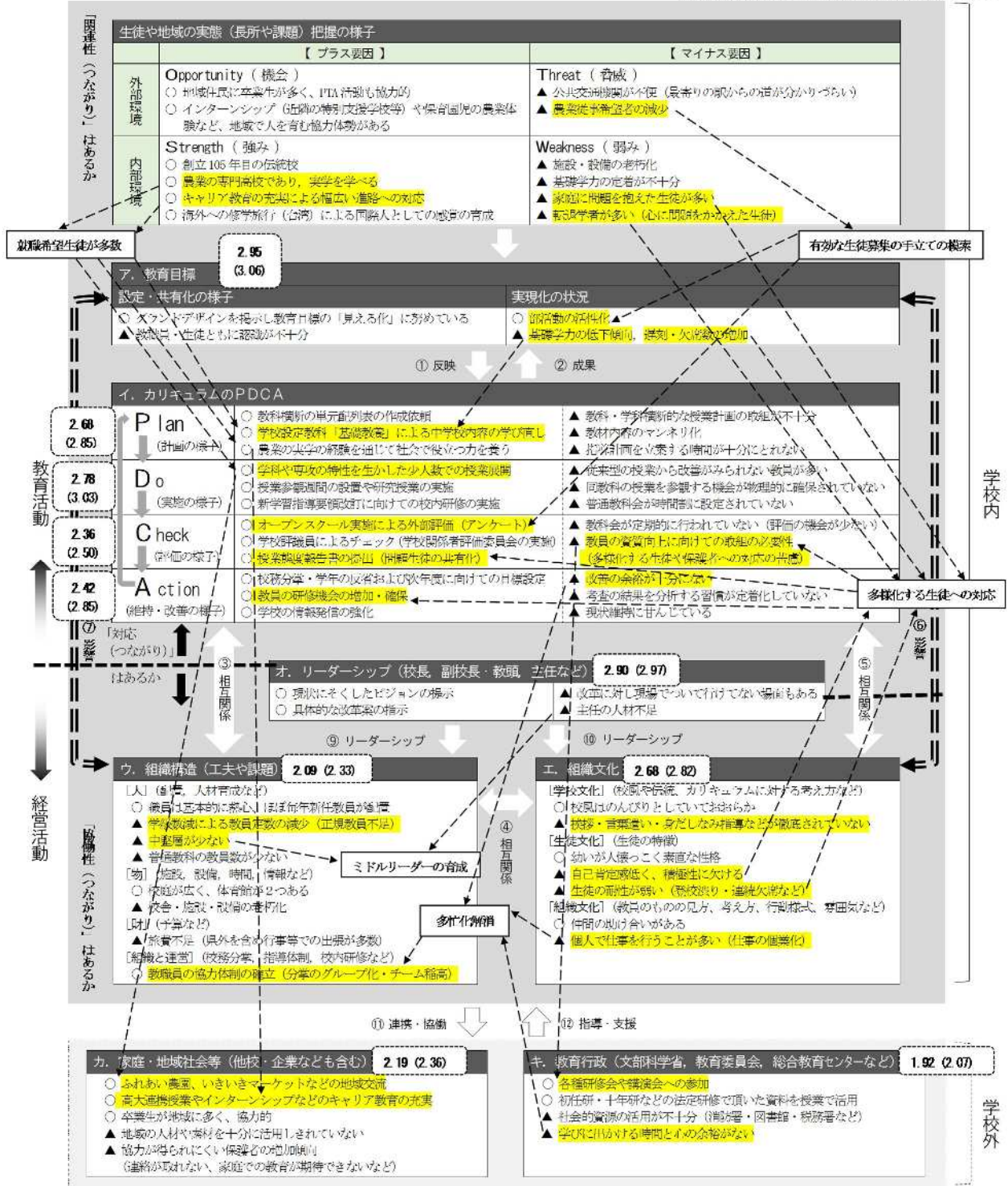
【添付資料 4】

授業改善に向けたカリキュラム・マネジメント分析シート (令和元年度) 【数育は平均値 0 以内は昨年度】 【愛知県立 稲沢高等学校】

【1】 目標 (育てたい生徒像、重点的に育成したい学力など)
 ・地域を愛し、地域から愛される、生徒も教師も輝く、笑顔溢れる学校
 ・基本的な生活習慣やマナーを身に付ける
 ・得意分野を伸ばし、自信を持って「強み」を持つ
 ・「人」としてのレベルの向上
 ・経験を通じて積み立てていく活発さを付ける

【2】 カリキュラム (【1】の目標を実現するために重点的に取り組む教育活動【教科・領域・活動等】)
 ・主体的・対話的な深い学びの実践と授業改善、基礎力の習得と家庭学習の定着、伸長機会の充実、GAF・STEM教育の推進
 ・基本的な生活習慣の確立 (遅刻・欠席の減少)、豊かな学びの場の確保、推進、授業の発行、情報マール、安全教育の実施、部活動の活性化
 ・全ての教育活動におけるキャリア教育の推進、価値観の醸成意識の向上

【○:プラス要因 ▲:マイナス要因 数字:項目の総点の平均】



Check Point 1 : 教育活動における、カリキュラムの面 (要素ア・イ) の関係性はあるか。 ⇒ 関係性はあるが、更なる検討が必要
 Check Point 2 : 経営活動における、マネジメントの面 (要素ウ・エ・オ・カ・キ) の協働性はあるか。 ⇒ ウ・エ・オの協働性もあり
 Check Point 3 : 教育活動と経営活動との対応はあるか。 ⇒ 対応はあり

【添付資料5】

令和元年度 1年生 単元配列表(普通科目)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語総合	ルリボシカミキリの青 未来を作る想像力	ルリボシカミキリの青 未来を作る想像力	未来を作る想像力 羅生門	羅生門	羅生門	羅生門 古文に親しむ	児のそら寝	児のそら寝	訓練の基本	訓練の基本 格言	格言
地理A	ヨーロッパの国名・地理EU	ヨーロッパの農業と工業	緯度と経度 時差 地図の図法	地図と運用 国家の領域と国境	世界の大地形 山地と平野	海岸の地形 水気・乾燥 カルスト地形	生活と気候の関わり 温帯気候	日本の自然環境	地震被害と防災 風水害・雪害と防災	中国の社会と文化 日本との関わり	巨大な人口 都市の発展と格差の拡大
数学 I	整式の計算	展開 因数分解 ルート計算	1次方程式 1次不等式	関数 1次関数とそのグラフ	2次関数のグラフ と最大・最小	2次方程式 2次不等式	三平方の定理 鋭角の三角比	三角比の相互関係 鈍角の三角比	正弦定理	余弦定理 三角形の面積	集合と命題
科学と人間生活	科学技術の発展	物質の科学	物質の科学	熱や光の科学	熱や光の科学	熱や光の科学	生命の科学	生命の科学	地球や宇宙の科学	地球や宇宙の科学	これからの科学と人間生活
体育	ラジオ体操	ラジオ体操 集団行動	ラジオ体操 集団行動	器械運動 陸上 ダンス	器械運動 陸上 ダンス	バレーボール サッカー バドミントン 柔道	バレーボール サッカー バドミントン 柔道	バレーボール サッカー バドミントン 柔道	ソフトボール 卓球 バスケットボール 柔道	ソフトボール 卓球 バスケットボール 柔道	ソフトボール 卓球 バスケットボール 柔道
保健	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方	健康と意思決定・行動選択 歴史からみた様々な健康のとらえ方	週間生活病とその予防 食事と健康 運動と健康	休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康	宇薬物乱用と健康 健康に関わる行動を考える 現代の感染症	感染症の予防 食生活・エイズ とその予防 欲求と適応機制	心の健康とストレス への対処	心の健康と自己実現	交通事故の現状と要因 安全な交通社会づくり 防災・防犯を目的とした社会づくり	応急手当の意義 とその基本 心肺蘇生法	日常的な応急手当 心肺蘇生法の実習
美術	美術基礎 テッパン(1点提出)	美術基礎 色彩 演習(色のトルン)試作製作(1点提出)	テーマに沿った製作(1点提出)	鑑賞	テッパン基礎「持ち物の広告」・レイアウト・ロゴ基礎	製作(1点提出)	美術応用 点描画「模写」・点描製作	模写製作(1点提出)	鑑賞	デザイン応用 音楽を聴いて「アートワーク」	製作(1点提出)
書道	用具・用材 姿勢・執筆法 用筆・運筆による工夫	楷書の学習 厳正と温雅 重厚と軽快	方勢と円勢 小字の書の鑑賞	行書の学習 行書の特徴 鑑賞と臨書	執筆の学習 家書の特徴 鑑賞と臨書	篆刻・刻字の学習 篆刻の用具 用筆・用材、姓名印 と文字配列	印稿・布字、刻す手順 隷書の学習 隷書の特徴 鑑賞と臨書	草書の学習 草書の特徴 鑑賞と臨書	仮名の書 仮名の成立と発達、基本的な筆遣い、仮名の種類	平仮名・変体仮名、連綿、鑑賞と臨書 漢字仮名交じりの書の学習	用具・用材 全体構成 名筆に学ぶ 硬筆の学習
コミュニケーション英語 I	Get Ready 辞書で調べてみよう。	L1 Kerama Blue	L2 Cool Japan L3 Mexican Dish L4 The Olympics	L5 Madagascar Reading Skill	L6 Toothbrushing L7 MachuPichu	L8 Motala L9 Dick Bruna	Reading Skill	L10 Tsujii the Great Pianist	L11 Ideas from Nature	L12 Steve Jobs	Enjoy Reading The Little Prince
家庭総合	家庭科技術検定・演習 衣服の役割を考える 自分らしい人生をつくる	家庭科技術検定・演習 被服を管理する 自分らしい人生をつくる	家庭科技術検定・演習 衣生活の文化と知恵 食生活について考える	家庭科技術検定・実技試験 これからの衣生活 食事と栄養・食品衛生	被服製作・調理実習 食事と栄養・食品衛生	被服製作・調理実習 食生活の安全と衛生	被服製作・調理実習 住生活の健康を見通した食事計画	被服製作・調理実習 高齢社会を生きる 子どもと共に育つ	被服製作・調理実習 経済生活を営む 親として共に育つ	被服製作・調理実習 経済生活を営む これからの保育環境	被服製作・調理実習 経済生活を営む これからの保育環境
総合的な探究の時間	農業クラブ活動について(意見発表と農業鑑定)	進路指導(キャリア教育ノート利用)意見発表	コース・科目選択ガイダンス(シラバスの利用)	1学期のまとめ(自己評価・相互評価・選択科目検討)	自己を見つめて(文書による自己表現)	職業の適性を考える(進路ガイディング)	愛知県農業技術顕彰制度および技術検定について	2学期のまとめ(自己評価・相互評価・選択科目決定)	自己を見つめて(文書による自己表現)	基礎学力を知る	人間生活と職業(キャリアノート利用)
教養数学(学校設定教科)	四則計算(加法・減法)	四則計算(乗法・除法) 式の計算	因数分解	約数と倍数	平方根の計算	式の値 比例式	方程式	不等式	文章題	文章題	文章題

【添付資料6】 授業実践に向けた共通理解チェックシート

授業実践に向けたカリキュラム・マネジメント共通理解チェックシート①

授業実践に向けたカリキュラム・マネジメント共通理解チェックシート②

学校 稲沢高等学校

学校 稲沢高等学校

授業者について (授業前)

学 年	1年
教 科	国語総合
授業者のカリマネについての理解	新任から二年目の教員である。初任研を通じ他の教員より深く学習している。
授業者の授業改善への意欲	改善の意欲が旺盛で、そのための努力も怠らない頑張り屋である。
授業者への願い	自分なりに考えて授業をしている。より良い授業を目指してこれからも精進して欲しい。

授業者について (授業後)

学 年	1年
教 科	国語総合
授業者のカリマネについての理解	新任から二年目の教員である。初任研を通じ他の教員より深く学習している。
授業者の授業改善への意欲	改善の意欲が旺盛で、そのための努力も怠らない頑張り屋である。
授業者への願い	自分なりに考えて授業をしている。より良い授業を目指してこれからも精進して欲しい。

授業についての共通理解

	評価				備考
	できて いる	どちらか と いえる	どちらか と いえない	不十分	
グランドデザインを意識した取組	4	3	2	1	評価できる点については○を付し、不十分な点については▲を付す。 解決策やその他、気付いたことについても記入してください。
重点目標の焦点化(学年あるいは教科)	4	3	2	1	
子どもの実態・課題(学年・クラス)	4	3	2	1	
身に付けさせたい資質・能力	4	3	2	1	
授業のねらい	4	3	2	1	
教科横断的な視点	4	3	2	1	
記録・評価(子供・教職員)	4	3	2	1	

授業についての共通理解

	評価				備考
	できて いる	どちらか と いえる	どちらか と いえない	不十分	
グランドデザインを意識した取組	4	3	2	1	○「協力・協働」を意識することができた
重点目標の焦点化(学年あるいは教科)	4	3	2	1	
子どもの実態・課題(学年・クラス)	4	3	2	1	△課題が多く焦点の定まらない授業となっていました。
身に付けさせたい資質・能力	4	3	2	1	△生徒にとって何のためになるのか明解でなかった。
授業のねらい	4	3	2	1	
教科横断的な視点	4	3	2	1	
記録・評価(子供・教職員)	4	3	2	1	○ルーブリックを用いて自己評価ができるようにした。

【添付資料7】

単元レベルでの資質・能力チェックシート（重点的に取り組む単元）

環境デザイン科 1年3組 40名

場所「西農場 農業実習棟西側2階」

科目「総合実習」

単元「造園樹木の分類」

●重点的、○補完的

	方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に実践する態度	表現力	思考力	協力	コミュニケーション
	内容							
導入	造園樹木の分類	●				○		
展開	前時の学習内容	●				○		
	活動①個人学習		●	○		○		
	活動②ペア学習			●	○		○	○
	後片付け	●					○	
まとめ	プリントまとめ 評価	●				○		

【添付資料8】 新教育課程編成のためのカリキュラム・マネジメント（園芸科）

教育目標		
<p>◇よい個人を形成する ◇よい市民を育成する ◇よい職業人を育成する</p> <p>個人の尊厳を重んじ、自らたくましい人生を切り開くなど「個人」の伸長を図り、農業高校生として生命を尊び、自然を大切にできる精神を養う。そして、郷土を愛し豊かな文化を継承できる「市民」であり、国際感覚を持ったグローバルな「職業人」を育成することを目指す。</p>		
育成すべき資質・能力		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> 社会へ出て困らない基礎学力の定着 実学である農業を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 経験を生かして組み立てていく活用力を付ける（本校での経験一つ一つを未来につなげる） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を愛し、地域から愛される生徒の育成 基本的な生活習慣やマナーを身に付ける 人としてのレベルの向上（挨拶・思いやり・自己研鑽） 国際感覚を身に付けたグローバルな人材の育成



学年	科目名 (単位数)	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学ぶに向かう力・人間性
1年 10	農業と環境 (4) ※実習2の座学2	農業と環境についての基本的な栽培技術とその知識を身に付ける。	農業に関する課題を発見し、農業関連産業に携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	総合実習 (2(1))	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解すると共に、相互に関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理に繋がる知識や技術が身につくよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	農業と情報 (2)	農業に関する情報について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	農業経営 (2)	農業経営についての体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へ繋がるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
2年 16 (18)	総合実習 (4(1))	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解すると共に、相互に関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理に繋がる知識や技術が身につくよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	野菜 (2) 単独	野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へ繋がるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	草花 (2) 単独	草花の生産と経営について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へ繋がるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	作物 (2) /英	作物の生産と経営について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へ繋がるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	農業機械 (2) /数	農業機械について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業機械について生物の特性を活用し生活の質の向上に繋がるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	★植物バイオテクノロジー (2) ※課題研究 (日農技等の資格)	植物バイオテクノロジーについて体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	植物バイオテクノロジーについて生物の特性を活用し生活の質の向上に繋がるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	★生物活用 (2) ※課題研究 (園芸福祉士等の資格)	生物活用について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	生物活用について生物の特性を活用し生活の質の向上に繋がるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	■食品流通 (2)	食品流通について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	■地域資源活用 (2)	地域資源活用について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身に付けるようにする。	地域資源活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。